

TRIPLE-CHANGE

すいたGRE・ENプロジェクト いじめ予防推進事業

令和2年（2020年）3月30日 吹田市立教育センター発行 第1号

令和2年度から吹田市ではいじめ予防授業を実施します（詳細は次項参照）。年度の始まりにあたって講師先生からのメッセージとともに、受講者の声を届けます。



子どもの発達科学研究所
主席研究員 和久田 学 先生

いじめ予防のカギは、大人の行動が握っています。学校をはじめ大人は、いじめがあっても乗り越えられる子供を育てないといけません。しかし大人が変わらないと子供も学校も変わりません。

学校の先生はいじめを防ぐ保護因子になれる存在です。今回の研修、調査、授業を吹田市全体として取り組むことは、いじめの問題だけでなく、集団作りについても、多くの課題解決のベースとなるはず。ぜひ取組の効果を実感してほしいと思います。

「この取り組みは必ず学校の力になる！」15時間にわたる専門研修を受講した後、再認識しました。教育は薫陶。学校の雰囲気（風土）や学級の雰囲気（風土）が子供達の行動に影響を与えることを私達は認識しています。一方100人子供がいれば100人ともいじめはダメだと知っています。けれど、いじめは起こります。しかもその多くは大人から見えない形で。この取り組みでは、風土を様々な因子で分析し数値化し見える化することができます。さらに、子供達自身で解決できる問題なのか・大人が介入すべき問題なのかを見極める知識、また子供達自身が考え行動するためのよりどころになるものについて明確に教えることができます。

学校が、「子供達が輝ける居場所」となることを願い、今こそいじめに対する科学的根拠のあるアクションを！
吹田市立教育センター
所長 草場 敦子

なぜ「ほめる」のか？なぜ「しかる」のか？を科学的な視点で考えることで「ほめる」ことの重要性を改めて感じる事が出来ました。

教育センター 上田 一朗

今回の研修でいじめの法的な位置づけや、学校での対応について学ぶことができました。いじめが起こった時の初動を知っておくことで、その後の安定した支援につながりやすいのではないかと思います。

教育センター 教育相談員 安田 結

いじめに対する予防や対応だけでなく、学級経営や子供たちへの指導にも生かすことができる内容でした。エビデンス（根拠）に基づいた科学的な視点から自分自身の行動を振り返ることが出来ます。スキルアップ間違いなしの研修です。

教育センター 大西 耕平

研修では「いじめとは何か」という素朴で抽象的な疑問について「科学」を用いた具体的な回答が得られました。話し合いを通じて体験的に学ぶ機会がいくつもあり、学んだ内容はそのままいじめ対応として使えることも魅力的でした。

教育センター いじめ対応専任相談員 西村 亮輔

自分の中の考え方の癖、自分の周りとの関係の取り方を「客観的に」見つめる目をもつこと、そこからいじめを含め、人を傷つける言動を食い止める一歩となるのではないか、そんなことを感じる研修でした。

教育センター 教育相談員 竹内 道子

「いじめ予防推進事業」は「いじめが起こりにくい学校づくり」を目的とし、専門的知見を持った研究機関である「(公益社団法人)子どもの発達科学研究所」と連携し、『研修』『調査』『授業』の3点を1つのパッケージとして実施することで、吹田市全体でいじめ予防に取り組むものになります。

(公益社団法人)子どもの発達科学研究所 <http://kodomolove.org/>

全小・中学校で取り組む「いじめが起こりにくい学校づくり」

